

草のみどり

Kusa no Midori

特集

中央大学父母連絡会へようこそ

父母懇談会開催のお知らせ

2022年度卒業式／2023年度入学式

FRONT LINE 経済学部

あらゆる業界に強い。経済学部生の就職実績

父母のための中大ガイド

2023 CAMPUS CALENDAR



世界を人に動かす Vol. 19

企業経営とグローバル経済の先端知識、優れたコミュニケーション能力を養うべく、国際経営学部生は前進を続けています。

「企業訪問サポーター」CVSの代表としての活動を振り返って

国際経営学部国際経営学科2年／栃木県立大田原高校出身

川名 英介
かわな えいすけ

国際経営学部に入學して本当にたくさんの挑戦の機会をいただいたなと強く思います。少しいだけ、私の入学までの背景を書かせていただきます。私は小中高と陸上競技に打ち込んでいました。大学の第一志望は国立大学で、陸上強豪校への進学をめざして受験に挑みましたが現役では合格に及ばず、自宅浪人して翌年に再受験するも結果は不合格。そんな経緯で滑り込んだのが、本学の国際経営学部。私は3期生として入学しました。当時の私は、中央大学で陸上を続けるか否かなり迷っておりましたが、学部内に漂う革新の雰囲気の後押しされ、陸上を諦めてこの新しい学部で新しいことをしてみようと心機一転いたしました。

陸上を取ったらほぼ何も残らないような私の挑戦を支えてくれたのは、紛れもなく学部の仲間たちと、学生のためならば手間と時間を惜しまない学部事務室の方々、そして先生方でした。今回は、国際経営学部の特色の一つである「学部公

認学生団体」、その中でも私が3期代表を務めた「企業訪問サポーター」、通称CVSでの取り組みと、今までの学部での活動について振り返ります。

国際経営学部生によって 設立された学部の学生団体

CVSという団体は、学生の主体性を尊重しながらその活動を後押ししてくださる学部事務室や先生方の存在に支えられています。そのおかげで、学生のみでは元来成し得ないことを時に実現したり、学生たちみずから学部の発展に関与できたりと、活動を通して成長を実感できる場となっています。

国際経営学部には、CVSのほかにも学部生によって設立された学生団体があります。留学幹旋団体GIAACEや学部広報団体のMANNAやプログラミングサークルのVenture Codeなどです。いずれも、学部を自分たちの手で発展させていこうという学生の積極的な姿勢が発

足の背景にあります。昨年度は団体同士のつながりも深めることができました。

「企業訪問サポーター」、 CVSに関して

毎年、白門祭の時期に企業のオフィスを直接（オンライン）訪問し、主に1年生を対象にキャリアを考えるきっかけを提供しています。CVSは訪問実施までのアポイントメントの調整や、訪問に先立つ参加者への事前勉強会の開催、訪問当日の引率、訪問後の事務作業、合同報告会と呼ばれる12月プレゼン大会の学部共同主催、それら一連の広報活動を担当。昨年度も先生方や事務室の方々にご尽力いただき、名だたる企業・機構への訪問を実現させることができました。私自身1年次にこの企画に参加し、学部を代表して前線で活躍する先輩たちの姿を見て入団を決意しました。そして、ありがたいことに3期代表として先輩方から選んでいただきました。3期目という組織確



1 信頼できる CVS3 期目の仲間たち!



2 CVS 合同報告会

3 CVS インスタ



@GLOMAC_CVS

学部活動を振り返って

立をしていくべき節目の年の代表を任せ、何度もプレッシャーに押しつぶされそうになりましたが、支えてくれた同期の10名のメンバー、本来の業務を超えて手を貸してくださった関係者の皆さまのおかげで、無事団体の集大成である合同報告会の参加者を去年の2倍弱まで増加させることができました。特に個人的に精神的な面で支えてくださった国松教授、事務室の熊谷さんにはこの場をお借りして感謝申し上げます。

冒頭で少し触れた通り、私は自分から「陸上」を取り除き、裸一貫でこの学部に進学しました。長期留学の経験もなく、語学力もイマイチ。何もかもが凡庸だった過去の私が、1年後にCVSの代表を務めると知ったらきつと驚くことでしょう。そんな私が一貫して持っていた自分のルールが二つあります。一つは機会があれば、絶対に何か発言してみることです。幼稚なことに聞こえるかもしれませんが、自分の発言が皆にどう思われるか、恐ろしいことでもあります。しかし、内容がどうであれ、そのプレッシャーに打ち勝って発言をするという選択を取ったこと自体を、質問者は評価してくれると思うこ

国際経営学部だより

ゼミで学ぶ

今年の3月、国際経営学部の第1期生の卒業生が出ます。しかし、本学部で卒業する際に待ち構え、超えなければならない大きなハードル、難関が卒業論文の作成です。国際経営学部では、期限以内に英語で卒業論文を作成、提出して、合格しないと卒業ができません。しかし、卒業論文は一朝一夕に作成、完成できるわけではありません。2年生の秋学期から始まる専門演習Ⅰ、3年生の春学期の専門演習Ⅱ、同秋学期の専門演習Ⅲ、4年生の春学期の専門演習Ⅳ、同秋学期の専門演習Ⅴ・卒業論文に参加し、これらの演習で学んだことの総仕上げが卒業論文となります。以下では、私が担当をしている演習、つまりゼミを紹介してみたいと思います。

専門演習Ⅰでは、経営学の基礎を英語で学びます。3年生の春からの専門演習Ⅱでは、国際経営の基礎を英語で学びます。秋学期の専門演習Ⅲでは、より進んだ国際経営の理論を学んだり、そろそろ卒業論文のテーマについて決定したりして、それを報告してもらいます。4年生になってからの専門演習Ⅳ、

Ⅴ・卒業論文では、毎回、担当者を決めて卒業論文について報告してもらっています。ゼミはただ学問を学んだり、卒業論文を作成したりするだけの場ではありません。学生同士が深く交流をする場でもあり、また、私など教員との関係を深くする場でもあります。学生たちが就職や進路に関する情報交換をする場にもなっています。

私のゼミの特徴の一つに、毎年12月の後半に実施するほかの大学との合同ゼミがあります。昨年は、明治大学、早稲田大学のゼミと、本ゼミの3ゼミで合同ゼミを実施しました。

本学部の学生がゼミを通じて、学問的にも、人間的にも成長をすることを祈念しています。

国際経営学部教授 咲川 孝



合同ゼミでの集合写真

とにしました。二つ目は、頼まれたことを断らないことです。与えていただいたチャンスは必ず全うするようにしました。一度申し出を受けると次回以降の頼まれ事の規模感が指数関数的に大きくなり、これを繰り返すことで加速度的に成長できました。また、本学部には、常に問い

かけのバスをくださる方の存在や、学生個人に裁量を委ねてくれる学風があると思います。何か新しく挑戦したいGLOMAC生の皆さん、この学部にはいい風が吹いています。是非、挑戦を恐れないうでください。私自身、今度は皆さんのサポートができれば幸いです。